

○青森県児童文学研究会 会長 野澤 秀昭 氏

◎青森県知事賞 青森市立古川中学校 3年 小松和佳「力をくれるごはん」

祖母の得意料理、自分をもっとも好きな「太巻き」に関する思い出を中心に、これまで育って来た家族の家庭料理や食生活の中で、見聞きし経験したことを振り返り、自分に力をつけてくれたものがなんであったかと自己認識を深めています。祖母への思いは深く叙述は多くはないですが、ご飯というテーマをはずさず感動的です。

さらに、祖母から母に伝えられている料理や、これまでの家族の食習慣の在り方など、これら食文化の伝統を受け継ごうとする気構えと、若者の食生活に対する危惧すべき風潮への批判など、社会的視野を広げ、中学3年生らしい将来へのしっかりした身構えもみえて頼もしく、心が明るくなります。

◎青森県教育委員会教育長賞 南部町立名久井小学校 2年 立花みちる「がんばるどんとお米」

お父さんとお母さんのお仕事のことから、大事な人を守るためにがまんしようと思ったんですね。町長さんの「がんばるどん」を食べてテンションが上がって元気がでたんですね。遠野のおじいさんとおばあさんから「コロナだってなんだって毎日ごはんを食べなきゃ。お米をつくっているから」と電話で励まされ、コロナでも変わらないこともあるんだ、と考えましたね。

ごはんをしっかり食べて、コロナウイルスには負けないぞ、という強い気持ちになったことが、よくわかりました。

◎青森県農協中央会会長賞 八戸市立江南小学校 6年 小泉璃子「田んぼづくりにちょうせん」

コロナで臨時休校になった自粛生活の中で、自分の家の畑で母と1メートル四方の田圃づくりをした、楽しい体験記録です。

これら小泉さんが経験したことは、日本の米作りの農家が経験する基

本的なことがらに一步近づき理解を深めたこととなります。親類のおばさんに、「今度は本物の田圃でやってみたら」と言われたとき、「いつか本物の田圃を受け継いでやってみたい」と思ったのは、米作りのいろいろな苦勞と同時に、つくることの喜びにも少し近づくことができた今回の貴重な経験があったからなんです。